



エロージョン

「エロージョン」（浸食）とは言ってみたものの、これをただ科学的表現でいききってしまうのは、少々おしい気がする。すくなくとも、天然の素顔とぐらい言ってやりたい。じつは、これは石灰岩の表面が風水によりエロージョンを受けたものである。いや、いまだエロージョンを受けつつあるのである。

現在のこの形は何時まで続くのであろうか？ このままの形を保つものか、あるいはおうとつ[・]の差が大きくなって、断崖絶壁を思わせる急峻なものになるのか、地形や地質の仕事にたずさわるものにとって、全く妙味を感じざるを得ない。

撮影したところは、ドラマの舞台にもなった小倉の平尾台地の一角で、カルスト地形が非常によく発達した風光明媚なところである。

所内第5回 写真コンクール 入選作「エロージョン」
鉱床部 核原料資源課 井上 秀雄

兼子地質調査所長

アメリカ・カナダ両国へ出張

兼子勝地質調査所長は、国連技術援助局とE C A F E共催のアメリカ・カナダ両国の地質・鉱山技術視察のため同視察団（E C A F E地域各国の技術者一行10数名）と共に、去る8月14日、羽田空港から出発した。



羽田出発の兼子所長

なお、帰国は10月中旬の予定である。

・ 斎藤地質部長 帰国

オーストラリア方面へ出張中の斎藤地質部長は、去る7月23日帰国した。

・ 関根良弘技官 帰国

ウラン鉱床研究のため西ドイツへ留学していた鉱床部関根良弘技官は、去る7月20日帰国した。

・・・地質調査所の出版物・・・

・ 地質調査所月報（第10巻 第7号）

報 文

- 番場 猛夫・斎藤 正雄：北海道生田原町北ノ王鉱山ほか2・3の金銀鉱床調査報告
- 大津 秀夫・砂川 一郎・高橋 清・種村 光郎・郷原 範造：岩手県土畑鉱山の黒鉱式（網状型）銅鉱床群について
- 中村 久由・安藤 武・陶山 淳治・前田 憲二郎・柳原 親孝・米谷 宏：宮城県鬼首環状地内における地質構造と地熱との関係
- 牧 真一：泥炭および泥炭地下水の有機物について
- 小野 吉彦：地層水の比抵抗
- 川島 威：サンプリングフィルターによる反射波形の変形

概 報

- 北海道十勝国ユーヤンベツ水銀鉱床付近地質鉱床調査報告
- 福井県鬼ヶ嶽陶石鉱床
- 北海道天塩・北見地方川砂鉄鉱床概査報告

資 料

- 同一元素法による地質時代の気候条件の決定問題
- カラフトの造構様式の問題について

（訂正）No. 58 (1959-6) 13P 左下から7行目(5)どぶガスや浴気ガス…は(5)どぶガスや沼気ガス…のまた No. 59 (1959-7) 1P 下から3行目 さらに1カ年延長し 34年度をもって…は さらに2カ年延長し 35年度をもって…の誤植に付き訂正します。